

| 学校教育目標 | | めざす子どもの姿（中期的目標） | 総合評価 | | | | | |
|----------|--|-----------------|--|---|---|---|---|---|
| かしこく | ○課題や疑問をもち、よく考えて解決する子 ○状況を判断し、正しい行動をする子 ○話をよく聞き、自分の考えを正しく伝える子 | めざす子どもの姿（中期的目標） | コロナ禍が落ち着き、いろいろな場面でコロナ前の活動ができるようになり、中長期的目標に沿った教育課程を推進することができた。「かしこく」に関わっては、生活科教育課程研究協議会という場をいただき、活動の振り返りをする事で次の活動の工夫につながることを実感し、授業改善をすることができた。「やさしく」に関わっては塩田支会人権同和教育研修会の場において、みんなが気持ちよく生活するための方法や相手を意識した声かけについて考えることができた。「たくましく」に関しては、今年度で自校給食が終了することとも関わって、給食の先生方との交流を通して好き嫌いなく食べることへの意識をさらに向けることができた。 | | | | | |
| やさしく | ○物を大切に使い、生き物の命を大切に使う子 ○感謝の気持ちを素直に伝える子 ○自分との違いを認め、誰とでも仲よくする子 | | | | | | | |
| たくましく | ○体を動かしたり運動したりすることを楽しむ子 ○決めたことをあきらめないでやりとおす子 ○すききらいなく食べ、健康な体をつくる子 | | | | | | | |
| 今年度の重点目標 | | | 成果と課題 | A | B | C | D | 改善策・向上策 |
| ① | かかわり合いのある「主体的・対話的」な授業の実施（学力向上） | | UD化を軸とした授業改善に取り組み、だれもが主体的に取り組めるように心がけた。やる気を感じられる児童が増えたように感じる。 | | ○ | | | 対話が生まれるような場の設定を考えていきたい。 |
| ② | 互いの「良さ」をわかり合える学級・学年づくり（生命尊重） | | 異年齢の交流活動をたくさんおこなうことができた。子どもたちの関係性がより温かみをもってきているように思われる。 | | ○ | | | これからも、児童会等で、子ども達の声から活動できる場を大事にしていきたい。 |
| ③ | 目当てを持って運動や活動に取り組む集団づくり（健康・体力向上） | | 体育の授業では、目当てをしっかりと持つことで体を動かす楽しさを味わえる児童がたくさんいた。姿勢教室で姿勢を正しくすることの良さを学ぶことができた。 | | ○ | | | 授業ではいつでも「めあてを持ち、振り返る」を意識して取り組んでいく。全校体育での運動を日常生活に取り入れることで、一層の体力向上に努める。 |

| 領域 | 対象 | 評価項目 | 評価の観点 | 成果と課題 | A | B | C | D | 改善策・向上策 |
|------|----|----------------------------|--|---|---|---|---|---|--|
| 教育課程 | | ① 各教科における表現活動の充実 | 各教科・総合的な学習の時間の学習場面で、自分の考えを表したり、他者の考えを受け止めたりして自分の考えを深めることができたか。 | 考えて発表する表現活動を取り入れたり、つなげて発言することを大切にしたりして、充実させることができた。話している友達の方を向いて意見を聞き、課題に向かって取り組むことができた。 | ○ | | | | 特に、国語において書く活動が多くなっている。学年段階に応じて、書く活動の積み重ねが必要である。 |
| | | ② 道徳教育・人権教育の充実 | 自分の考えをもち、自分とは異なった考えを持つ相手の立場にたった言動ができるようになったか。 | 日々の人権教育と週1回の道徳の時間を大切に取り組むことができた。また、なかよしペアでの活動をたくさん取り入れ、異年齢での交流ができた。 | | ○ | | | 多様な仲間からの学びができる場を今後も意図的に位置付けていく。また、授業の時だけでなく、学校生活全般において継続的に指導していく必要がある。 |
| | | ③ 特別活動の充実 | 目当てをもって行動するとともに、自分の行動を振り返り、次の行動へのめあてをもつことができていくか。 | 目当てを明確にすることや手順をはっきりさせることで、見通しを持って活動する姿につながった。 | | ○ | | | 振り返りを次の時間につなげられるような実践の積み重ねを行う。 |
| 学習指導 | | ④ 読む活動の充実 | 朝読書、読み聞かせ、図書館の時間などの読書活動を教師の積極的なかかわりによって充実させているか。 | 図書館の先生やこんべいどの会などの読み聞かせ活動は充実しているが、朝の活動に読書の時間が少なく、進んで読んでいる子は多くない現状である。 | | ○ | | | 朝の活動は読書を基本にし、日常的に読書をする時間を位置付けていく。 |
| | | ⑤ 授業の充実 | 考える活動、表現する活動を意識した授業に取り組み、主体的・対話的な学習が活発に展開されているか。 | ①にも関わって、考えて表現する活動を充実させることができた。また、ペアやグループなどでの活動を取り入れることができた。 | | ○ | | | これからも、主体的・対話的な学習を行うために、ペア学習、グループ学習などを意図的に取り入れていく。 |
| | | ⑥ 家庭学習の充実 | 基礎の定着及び学習への意欲を高める家庭学習が位置づけられているか。 | ほとんどの子は定着できているが、高学年になるほど、個人差が大きく、個別対応が必要な児童もいる。 | | ○ | | | 「家庭学習の手引き」を作り、保護者に示していく。 |
| 生徒指導 | | ⑦ 基本的な生活習慣の充実 | 自分からするあいさつ、「～くん、～さん」の友の呼び方、靴のかかとそろえ、時間のけじめなどの基本的習慣が日常的に身につくような指導がされていたか。 | 児童会でも呼びかけ、挨拶については、自分から進んでできる子が多く、気持ちのよい挨拶ができていく。「～さん、～くん」付けについては、できない子がいるので、引き続き誰もが気持ちよく生活できることを目指して指導していきたい。 | | ○ | | | 児童会の活動で、ミッションがあった時には意識して「～くん、～さん」付けができていたので、続けていく。 |
| | | ⑧ 自他を大切にすることを意識させるための活動の醸成 | 学校生活全般で相手を意識させ、互いの気持ちを考えたり、相手に寄り添った行動がとれたりする場面を日常的に取り入れることができたか。 | 課題があった時にタイムリーに指導したり、全職員で連携して情報収集したりすることができた。人権教育などで、よいところさがしなどを行った。お互いを認め合っているように感じる。 | | ○ | | | 相手意識を高めるために、必要感のある活動を設定していく。そうした活動を積み重ねていきたい。 |
| 学校運営 | | ⑨ 地域に根ざした学習の充実 | 地域の自然・人材・文化財から学ぶ学習を仕組み、豊かな体験を通して人や物との関わりを学ぶ学習をすすめることができたか。 | コロナが落ち着いて、外部講師を中心に地域の人材から学ぶ機会を持つことができた。しかし、地域に何があるか、どんな人材がいらっしゃるかなど職員が知らない場合がある。 | | ○ | | | 職員研修で地域の教材研究を行う。また、児童が知っている場合があるので、児童に聞いてそこから広げる方法もある。 |
| | | ⑩ 情報の発信と連携 | 学校公開、学校・学年・学級便り・ホームページなどを通して児童の様子や学校の願いを伝え、保護者・地域との連携に努めているか。 | コロナが落ち着き、今年度は学校公開を予定通り実施することができた。情報発信も例年通り実施できた。 | | ○ | | | 引き続き、学校公開や情報発信に努めていく。地域に積極的に発信し、学校活動に協力していただく。 |
| | 研修 | ⑪ 授業の改善 | 明確な自己課題を持ち、その解決のために授業公開や各種研修に積極的に関わり自己研修に努めているか。 | 重点研究や一人一公開の授業や、各種研修に進んで参加し、授業改善に活かすことができた。 | | ○ | | | 校内研修などで、学ぶ機会を持つようにする。 |